

# 金比羅山古墳から王塚古墳へ 見えてきた桂川の古墳ストーリー

金比羅山古墳の調査結果から見えてくるものは何か。  
調査を担当した九州大学大学院の辻田准教授に話を聞きました。



## 【桂川付近の前方後円墳築造の流れ】

▼これまでの考え方		
6世紀	5世紀	4世紀
天神山古墳 王塚古墳 (6世紀中頃)	ホーケントウ古墳 大平古墳 宮ノ上古墳	金比羅山古墳
▼調査後の考え方		
6世紀	5世紀	4世紀
天神山古墳 王塚古墳 (6世紀中頃)	ホーケントウ古墳 大平古墳	宮ノ上古墳 金比羅山古墳 (3世紀末頃)

※太字は全長60m以上の古墳



九州大学大学院 人文科学研究院  
つじた じゅんいちろう  
辻田 淳一郎 准教授

## 金比羅山古墳と王塚古墳 年代の差は約200年

——今回の調査が行われるまでの金比羅山古墳の位置付けは？

これまで金比羅山古墳は、地理的な状況から、**王塚古墳(6世紀中頃)**よりやや古い年代の古墳であると考えられてきました。

そして、寿命丘陵の最も北に位置する金比羅山古墳から王塚古墳までの前方後円墳や円墳が、この地域の代々の首長の墳墓であるというのが一般的な考え方でした。

——金比羅山古墳の築造年代の判明で見えてくることは？

今回の調査で、金比羅山古墳が想定よりずっと古い年代の**3世紀末〜4世紀初め頃**に築造されたことがわかりました。**金比羅山古墳と王塚古墳は200年近く年代の差**があることになりました。

注目すべきは、遠賀川流域で最大級の規模である金比羅山古墳が、3世紀末頃にこの地域に築造されていたという点です。王塚古墳の築造を可能にしたこの地域の**社会基盤が、3世紀頃にはすでに確立していた**ことを示していると言えます。

特に、前方後円墳の築造にはある程度の技術が必要で、その技術は中央政権のある近畿地方に集中しています。つまり、金比羅山古墳が築造された3世紀末頃には、すでにこの地域と近畿地方に繋がりがあったのではないかと推測できます。

## 古墳時代の桂川と周辺地域

——金比羅山古墳や王塚古墳が築造されていた時代、桂川はどんな地域だったのでしょうか。

5〜6世紀頃、桂川から飯塚・嘉麻にかけての地域には、朝鮮半島からの渡来人や朝鮮半島の技術を持った人々が多くいたと見られており、朝鮮半島との交流も盛んだったようです。例えば王塚古墳の被葬者も朝鮮半島と交流を行っていたのかも知れません。

また、この地域は近畿地方や福岡・粕屋・太宰府方面への内陸交通の要所でもあり、かなり繁栄していた地域だったのではないのでしょうか。

——金比羅山古墳をはじめ、多数の古墳が点在する**寿命丘陵は**どういった場所だったのでしょうか。

寿命丘陵は、3基の前方後円墳と30基を超える円墳が分布するなだらかな